

# 令和4年度学校自己評価システムシート ( 県立蓮田松韻高等学校 )

目指す学校像	校是「松風水月」及び校訓「誠実・挑戦・感謝」の精神の下 自ら未来を切り拓く力を持ち、心豊かな生徒を育てる学校
--------	---

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

重点目標	1 基礎学力の確実な定着と個に応じた学習環境の提供 2 基本的生活習慣の確立と特別活動を通じた人間力の育成 3 社会的自立に向けたキャリア教育の推進 4 地域との連携強化による信頼される学校づくりの推進
------	--

達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
	B	概ね達成 (6割以上)
	C	変化の兆し (4割以上)
	D	不十分 (4割未満)

出席者	学校関係者	5名
	生徒	3名
	事務局(教職員)	3名

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する。)は複数設定可。  
※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

学校自己評価							学校関係者評価	
年度目標					年度評価 ( 2月1日現在 )		実施日 令和5年3月4日	
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	学校関係者からの意見・要望・評価等
1	<ul style="list-style-type: none"> <li>●現状 (授業認識：昨年度生徒アンケート)               <ul style="list-style-type: none"> <li>・分かり易さ→90.1%(R2 88.6%/+1.5%)</li> <li>・満足度→84.3%(R2 89.2%/-4.9%)</li> </ul> </li> <li>●課題               <ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒は授業に対して分かりやすいと評価しているが、年次が上がるにつれ、満足度が下がる傾向にある。</li> <li>・意欲的に取り組む生徒と全体の学力の引き上げのための学習支援</li> <li>・外部専門機関と連携した組織的対応</li> <li>・欠点保有者の増加</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①基礎学力の定着と向上</li> <li>②PDCAによる授業の工夫・改善</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①「松韻プラン」に基づき、学力の定着と向上を推進する。学習支援が必要な生徒への学力定着と組織的な支援を継続する。また、意欲の高い生徒に対して、補習等の組織的な学習活動を実施し、学力の向上を図る。</li> <li>②生徒の資質・能力や進路希望に応じた学習指導の研究を行い、分かる授業の実践と振り返りによる新たな工夫を取り入れるとともに、補習等も充実させる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①・生徒アンケートの「授業集中度」5%増(90%以上)</li> <li>・進学及び調査前補習等実施回数及び参加率の向上</li> <li>・ICTを活用した授業展開の工夫と研究</li> <li>②・欠点保有者数5%減</li> <li>・教育相談員、スクールソーシャルワーカー、スクールカウンセラー等と連携した教育支援に関する研修会の実施回数</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①・授業の集中度・満足度→87.6%目標の90%には届かなかった。しかし昨年度比較+3.3%であった。また、年次が上がるごとに集中度・満足度が上がっている。</li> <li>・ほとんどの授業でICTを活用した授業展開を行った。</li> <li>②・調査前補習等を実施し、昨年同期(2学期)と比較して欠点保有者の割合が1.5%減少した。</li> <li>・スクールカウンセラーによる教育支援研修会を例年どおり実施した。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今後も、生徒の学力向上及び教職員の指導力向上に取り組む必要がある。今年度を振り返り、計画的な研修会等を実施し新たにできることはないか模索し、実践する。</li> <li>・教育支援の観点から生徒の特性について共通理解のために、次年度のできるだけ早い時期に研修会を実施する。</li> <li>・感染症状況を見ながらの外部専門機関との連携を進める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・分かりやすさ、満足度、共に約9割に達していることは大きな成果である。年次が上がるごとに数値が下がるのは、システムに慣れたことが要因と推測される。</li> <li>・分かりにくい、不満足であるというアンケート結果の分析が必要である。その分析結果からPDCAを廻すとよいのではないかと。</li> <li>・授業の集中度や満足度が年々向上していることは、着実な取組の成果である。</li> </ul>
2	<ul style="list-style-type: none"> <li>●現状 (充実感：昨年度生徒アンケート)               <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校行事 →90.9%(R2 86.5%)</li> <li>・部活動・生徒会 →92.6%(R2 86.6%)</li> </ul> </li> <li>●課題               <ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナ禍における学校行事の展開方法</li> <li>・仲間意識の向上とチャレンジ精神の醸成</li> <li>・部活動加入率の向上と維持</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①生徒主体の特別活動の運営と充実</li> <li>②部活動の活性化と継続</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①「松韻プラン」に基づき、生徒の主体性を育成するため、各行事の目的を明確化し共有するとともに、これまでのコロナ禍で培ってきた活動方法をブラッシュアップしながら推進する。</li> <li>②部活動活動指針に基づいた部活動の運営を行い、生徒が3年間継続して活動できる指導を推進する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①・学校行事、部活動、生徒会活動の充実感5%増(95%以上)</li> <li>②・部活動加入率の5%増と3年次までの継続率の向上</li> <li>・大会、コンクール等への参加</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①・学校行事等の充実感に大きな変化はないが、コロナ禍前に近い形で実施できた。</li> <li>学校行事 90.6%(-0.3%) 部活動・生徒会 86.5%(-6.1%)</li> <li>②・部活動加入率は例年と同様程度である。</li> <li>・各種大会やコンクールで良い成績を修めた</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校行事等の充実感が増えなかった。全生徒が高校で初めての行事となり、仲間と意見を交わし進めていく中で思いどおりコミュニケーションが取れず困惑してしまっただけではないか。それ以外の要因も振り返り、次年度につなげる必要がある。</li> <li>・学校全体の在籍人数に対して部活動数が多いため、精査が必要である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒会の取組が良好なことに今後の可能性を感じさせる。</li> <li>・久しぶりに松韻祭でのクラス企画や沖縄修学旅行が実施されたのに、充実感がアップしない結果は残念でした。クラスの団結力が弱いところは、単位制高校のデメリットなのかと考える。</li> <li>・魅力的な部活動(ダンス部・チアリーダー等)があると、生徒も加入してくれるのではと思う。</li> </ul>
3	<ul style="list-style-type: none"> <li>●現状 (生活習慣：昨年度生徒アンケート)               <ul style="list-style-type: none"> <li>・マナーの良さ →71.1%(R2 57.2%)</li> <li>・校則の親和性 →83.0%(R2 77.2%)</li> </ul> </li> <li>●課題               <ul style="list-style-type: none"> <li>・SNSトラブルの増加</li> <li>・規範意識が薄い</li> <li>・マナー意識の欠如</li> <li>・自己実現・進路実現を見据えた、組織間での連携と体系的なキャリア教育の推進</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①基本的生活習慣の確立と向上</li> <li>②進路指導の充実</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①「松韻プラン」に基づき、引き続きモラルの育成を徹底しSNSトラブルを未然に防ぐ。交通安全指導及び人権教育を継続して実施するとともに、成年年齢引き下げに対応できる社会性を育成する。</li> <li>②年次、教科、進路指導部が密に連携を取り、キャリア教育を体系的に実施する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①・SNSトラブル件数20%減</li> <li>・規範意識の向上10%増</li> <li>・交通事故件数30%減</li> <li>・人権教育の2回以上実施</li> <li>・主権者教育や消費者教育を初め、成年年齢引き下げに対応するための授業を展開</li> <li>②・進路決定率 95%以上</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①・SNSに関して4月当初に外部講師を招き、生徒指導講演会を実施した。その結果大きなトラブルはなかった。</li> <li>・交通事故の学校への報告件数は、昨年度より増加した。→9件(+5件)</li> <li>②・進路決定率 94.8%(+1.6%) 進学62.7%、就職37.3%である。個々の希望にあわせきめ細やかな指導を行った結果である。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・交通ルール順守を含め、規範意識の向上が必要である。全校集会で全校生徒に意識付けを行うとともに、日頃から対策や対応を丁寧に行う必要がある。</li> <li>・進路決定率については、目標を達成する見込みである。その結果、適切な進路指導をしていると回答した3年次生徒が95.3%、保護者が90.6%であった。次年度への引継ぎをしっかりと行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・SNSトラブルが防ぐことができたという成果は大きい。今後は交通事故防止の取組が重要になると思う。</li> <li>・基本的生活習慣やマナー教育について、校内だけでは限界があると思う。外部講師による指導をさらに取り入れてはどうか。</li> <li>・マナー向上が外部に周知されれば、入試倍率の向上につながるかもしれない。</li> <li>・進路指導については連携が取れているので、これからも続けてほしい。</li> </ul>
4	<ul style="list-style-type: none"> <li>●現状               <ul style="list-style-type: none"> <li>・HP、SNSでの更新回数の増加</li> <li>・コロナ禍における外部機関との連携と工夫</li> </ul> </li> <li>●課題               <ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒募集に関する情報発信と各種連携</li> <li>・地域活動への参加方法の工夫・改善</li> <li>・学校から地域への働きかけの工夫</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①地域行事への参加</li> <li>②情報発信と関係機関との連携</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①地域行事へ生徒及び教職員の参加及び地域関係機関との連携・教育活動を実施し、地域貢献を推進する。</li> <li>②「松韻プラン」に基づき、HPの更新を積極的に行うとともにスマートフォン等で中学生や地域の方が手軽に見ることのできる公式アカウントを活用した情報発信と広報活動を推進する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①・地域行事の運営協力の貢献回数と学校から働きかけた新規協力事業の開拓数</li> <li>・図書館及び体育施設の開放等の実施回数</li> <li>②・HP閲覧数20%増</li> <li>・志願者の増加</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①・これまでの地域関係機関に加え、JR蓮田駅や就労支援事業所等との連携を進めることができた。この連携から、新たな連携の依頼をいただいている。</li> <li>・施設の開放については、コロナの感染状況を鑑み、グラウンド開放以外は見送った。</li> <li>②・HPやSNSでの発信を強化した。記事は500回近くアップされた。閲覧数も伸びている。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今年度新たに連携した地域関係機関がある。今後も無理なくできる方法で継続する。これらの連携が生徒募集にもつながることを念頭に置き、進めていく。</li> <li>・HPや公式アカウントでの情報発信は定着してきている。これら以外にも、学校公開期間を設けるなど、様々な工夫をして、新たな情報発信を行い、生徒募集につなげる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・HP、SNS等も有効だが、直接生徒や教員が伝えることに勝るものはない。</li> <li>・違った年代と接点を持つことは大切だと感じている。地域行事や小中学校との交流なども積極的に参加してほしい。</li> <li>・蓮田市主催の行事への高校生の出演は注目度が高く、地域の学校であるという誇りを市民にアピールできる場である。引き続き積極的に参加してほしい。</li> </ul>